

平成 22 年度公立高校入試問題の傾向 数学

●全体的な傾向

問題文が長文化する傾向にあり，問題用紙 1 ページ分が全て問題文になっている県もある。会話文形式で出題する問題も増えており，方程式の応用問題や規則性に関する問題でそのような傾向が目立つ。基本的な問題構成としては，大問 1 が計算問題や小問集合で，その後，数と式に関する問題，関数の総合問題，図形の総合問題，思考力を問う問題といずれの範囲からも偏りなく出題されている。難易度は近年と大きな変更はない。

●規則性の問題

階段の上がり下がりを考える問題，積み木を積み重ねる問題，ひいたカードの数とメダルの裏表の関係を考える問題，チョコレートを食べる割合を考える問題などが出題されている。内容はより複雑で 2 種類の場合の組み合わせを考える問題が増えている。会話文形式で問題を出題し，下線部を説明しなさいなどの問い方をしている問題もある。

●思考力や表現力を問う問題

水道の料金表を使った問題，郵便物の料金表を使った問題，バスの運行表を使った問題などの近年話題の公立中高一貫校の適性検査と似たタイプの問題が出題されている。また，作図した図が条件に適していることの説明や，判断の理由をあげて説明するような表現力を問う問題が出題されている。問題文も長文化しており，図や表をよみとって問題を解かせるようなタイプも出題させている。これらの問題では，数学的思考力だけでなく，読解力や表現力も問われている。

●その他

身近な物を題材とする問題が近年増えている。今年度は，スパゲッティ，桜餅，ヒーター，スロープ，コピー用紙などがとりあげられている。また，砂像フェスティバルや焼きまんじゅうなど地域独自の物事や，遷都・バンクーバーオリンピックなどの身近な出来事を話題とした問題も出題されている。また結束するためのバンドというような興味がわく題材を扱い，写真やイラストを多く使うことで，出題形式を工夫している。

大問 1 のような小問集合を確実に解くことができるようになることは必須で，かつ規則性の問題や数学的思考力の問題を解くことで得点アップがはかれる。そのために好学出版数学科では，基礎レベルの問題からステップを細かく演習して，入試問題レベルまで到達できるような仕組みを教材に反映している。また規則性の問題や数学的思考力の問題は数学の重要内容として位置づけて，特集単元で必ず扱うようにしている。今年度増加した長文や会話文や説明する問題も同様に重要内容としている。